

大学名等	東北大学大学院医学系研究科
教育プログラム・コース名	臨床開発型腫瘍医（がん予防・遺伝性腫瘍）コース（正規課程）（テーマ②）
対象職種・分野	医師・腫瘍内科
修業年限（期間）	4年
養成すべき人材像	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲノム検診に結びつく予防について易罹患性、疫学的リスク、がんゲノム医療等を実践できる腫瘍内科医、消化器内科医、乳腺外科医、婦人科医 ・希少がん、個別化医療、リンチ症候群や遺伝性卵巣がん症候群などをはじめとした遺伝性腫瘍患者 ・病的バリエーション保持者を臓器横断的に実践できる腫瘍内科医、消化器内科医、乳腺外科医、婦人科医
修了要件・履修方法	必修科目を含む医学履修課程の系統講義コース4単位以上、トレーニングコース20単位以上、アドバンスド講義2単位以上、計30単位以上を取得して、論文研究に合格すること。
履修科目等	<p><必修科目>臨床腫瘍学特論I～II*（4単位）、臓器別臨床腫瘍学特論（4単位）、次世代腫瘍予防学特論（2単位）、遺伝性腫瘍診療トレーニング（8単位）、論文研究（10単位）</p> <p><選択科目>がんプロ合同セミナー#（2単位）、臨床腫瘍研究開発学特論（2単位）、がん医科学セミナー（2単位）ほかコア科目系統講義コース科目・トレーニングコース科目・アドバンスド講義科目、がんプロ科目トレーニングコース科目。*ゲノム医療、希少がん、小児がん、次世代腫瘍予防、腫瘍研究開発に対応、#遺伝子診療部教育セミナー、希少がん・難治がんカンファレンス、がんセミナー等を含む。</p>
がんに関する専門資格との連携	がん薬物療法専門医（日本臨床腫瘍学会）、消化器病専門医（日本消化器病学会）、乳腺専門医（日本乳癌学会）、婦人科腫瘍専門医（日本婦人科腫瘍学会）、遺伝性腫瘍専門医（日本遺伝性腫瘍学会）の研修施設として認定。
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	<ul style="list-style-type: none"> ・次世代がん研究者・医療従事者を養成する講義・実習内容（新規性） ・がん予防、遺伝性腫瘍、ゲノム医療（ゲノム検診を含む）、希少がん、難治がん、小児がんのいずれか、できればがん予防や遺伝性腫瘍に博士研究テーマを持つ（独創性）。課程終了数年後には各専門医、さらに遺伝性腫瘍専門医取得を目指す。 ・海外との共同研究を積極的に行う（留学期間を在学期間に参入する規定あり）。
指導体制	<ul style="list-style-type: none"> ・東北大学病院腫瘍内科、消化器内科、乳腺外科、婦人科のそれぞれ教授以下の教員5～6名計20名が中心 ・さらに、遺伝科、加齢・老年科、緩和医療科、放射線治療科、血液免疫科、消化器外科、小児科、東北メディカルメガバンク等の各々の領域の専門医が連携して指導する。
修了者の進路・キャリアパス	<ul style="list-style-type: none"> ・東北地方のがん診療連携拠点病院に勤務し新ニーズを普及・啓発 ・1～3年後に総合内科専門医や外科専門医、その2-3年後にがん薬物療法専門医あるいは消化器学会専門医、乳腺専門医、婦人科腫瘍専門医、さらに2-3年後に遺伝性腫瘍専門医取得 ・人にやさしいがん予防・個別化がん医療・ゲノム医療・遺伝性腫瘍診療の開発・普及を担う大学等の臨床腫瘍学研究者